



遙かなる 甲子園

2019年8月4日(日)

和光市民文化センター サンアゼリア

開場 午後1時

開演午後1時半

昭和40年、沖縄で風疹が大流行しました。その時に先天性風疹症候群により聴覚障害を負ってしまった子ども達。その子ども達が高校生になった時、目指したのは甲子園。本人達の努力はもとより周囲の人々の尽力で、高校野球地方大会への出場がかないました。甲子園は遙かでしたが、その奮闘の実話は「遙かなる甲子園」というお話しとして伝えられ、コミックス、映画、そして演劇になっています。感動を与えるとともに障がいについて考えさせられ、そして風刺予防の大切さを訴える演劇です。ぜひ、この演劇でより多くの人に障がい者のノーマライゼーション、風疹予防接種の重要性を知っていただくとともに、皆さんと感動を共有したいと思います。

入場無料

主催：「遙かなる甲子園」公演実行委員会

共催：風疹をなくそうの会 hand in hand (財) 和光市文化振興公社

推薦：厚生労働省

後援：埼玉県医師会・朝霞地区医師会

埼玉県・和光市 和光市社会福祉協議会 彩の国予防接種推進協議会
風疹ゼロプロジェクト



<http://www.morimori.or.jp/harukana.html>

入場無料ですが、会場準備の都合上、
申し込みを上記からお願いします。

遙かなる甲子園 昭和40年沖縄で風疹が大流行しました。このときに先天性風疹症候群に罹患してしまった子ども達が400人以上にのびました。この子どもたちのためにたった1学年だけの聾学校が開設されました。この生徒たちが高校生になった時に甲子園をめざしました。

当時の高校野球憲章では聾学校の加盟は認められません。しかし生徒たちや周囲の人々は諦めずに奮闘努力しました。



この実話をもとに作られたお話がこの「遙かなる甲子園」です。最初はノンフィクションとして出版され、漫画となり、映画化もされました。そして今は関西芸術座が演劇として上演しています。

この感動的な舞台と一緒に観劇しませんか？そして、先天性風疹症候群を防ぐこと、障がい者のノーマライゼーションについても考えて頂ければ幸いです。

先天性風疹症候群 風疹は非常に強い感染力をもつ風疹ウイルスによっておこる急性の発疹性感染症です。小児が罹患してもそれほど強い症状を示しません。成人では重症化することもあります。しかし一番の問題は妊娠中の女性が罹患すると胎児が風疹に罹患し、先天性風疹症候群になってしまうのです。先天性風疹症候群では心臓、視力、聴力に障害が出てしまうことがあります。この先天性風疹症候群になる子をなくすためには社会で風疹の流行を防ぐしかありません。風疹の流行は免疫を持たない人にワクチン接種をすることがもっとも効果的な方法です。

2013年には風疹が流行し、1万4千人近くが罹患し、40人以上が先天性風疹症候群になってしまいました。そしてその1/3はすでに他界されてしまいました。そして2018年から再び風疹が流行してしまい、2019年は3月末現在で1000人近くの風疹患者が

出ていて、残念ながら先天性風疹症候群が発生してしまうだろうと予測されています。

今年から3年間にわたって風疹予防接種を受ける機会がなかった方に公費で抗体検査の後に予防接種が受けられます。その重要性を皆様に強く訴えたいと思います。

手話と障がい 本公演においては手話が多用されています。手話の内容は字幕で表示されます。通常ならば字幕は音声言語がわからない方のためのもので、しかし、この演劇の中では逆転しています。「手話がわからないという障がい」を持っている方むけの字幕なのです。ぜひ観劇して障がいについても考えを深めて頂ければ幸いです。



風疹をなくそうの会「hand in hand」

妊娠中に風疹に罹って出産した母親と先天性風疹症候群の当事者グループです。日本で風疹が再び流行しないようにするための情報発信をし、流行によって影響を受ける女性、子ども、家族のサポートをしています。女性や赤ちゃんが安心して街を歩ける社会を目指して、皆で支えあいながら活動をしたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

E-mail stopfuushin2013@gmail.com

Facebook <https://www.facebook.com/fuushin2013>

Twitter @knimama

Instagram @ stopfuushin2013

「遙かなる甲子園」公演実行委員会

haruka@morimori.or.jp

048-468-4055

